The 38th
TOKYO MOTOR SHOW
Commercial & Barrier-free Vehicles
2004
News Vol.6 平成16年11月8日
第38回 東京モーターショー2004 働くくるまと福祉車両

第38回東京モーターショー2004 閉幕
来場者24万人を突破
―有終の美を飾った商用車ショー「働くくるまと福祉車両」―

最後の開催となった商用車ショー「第38回東京モーターショー―働くくるまと福祉車両―(2004年)」は11月7日、閉幕した。会期6日間の総来場者数は24万8,600人と、主催者が見込んだ23万5,000人を上回る盛況ぶりで有終の美を飾った。

ショーを成功に導いたのは、サブタイトルを従来の“商用車”から「働くくるまと福祉車両」に変え、出品各社が人々の生活を支える「働くくるま」と社会的関心が高まっている「福祉車両」の最新モデルと最先端技術を展示。また子供からビジネスユーザーまで幅広い来場者に対応した「参加・体験型」の多彩な特別企画を提供したことだと言えよう。

環境対応の最新モデルと福祉車両についてはワールドプレミア(世界初出品)が38台、ジャパンプレミア(日本初出品)15台を数え、前回を上回るなど東京モーターショーは各社が最新鋭のモデルや最先端技術をアピールする場として人気を集めていた。また各社とも高齢化社会に対応した福祉と環境関係の出品に力を入れ、総出品台数206台のうち福祉車両が約4分の1、環境対応モデルが約5分の1を占めていた。来場者が「前回と比べはるかに進化している」と技術進歩の早さを高く評価していたほどだ。固いイメージの商用車ショーになかった新たな魅力が付加されたショースタイルが広く来場者に認識されたことで来場者増に結び付いたといえる。

乳児・幼児サービスセンター

ファミリー層へのホスピタリティ向上を目的に、西ホール付近の中央モールに設置された「乳児・幼児サービスセンター」。平日8名、休日10名のベビーシッターが、多いときで1日200人の子供を預かる。授乳、おむつ換えのスペースを完備しているほか、親子で遊べる乳児休憩室がとくに好評だった。

献血、骨髄バンクコーナー

東ホール、中央ホール間の「いこいのモール」では、「献血、骨髄バンクコーナー」が盛況だ。日本赤十字社は協力者数を休日で140名程度と予想していたが、ふたを開けてみると約200名という日もあったという。「今年は悪天候続きで、献血車が出向けない日が多く血液が不足していました。協力してくださった方々には頭が下がります」(赤十字関係者)。骨髄バンクのドナー登録のほうも好調だった。

ユーザーの声　いいドライバーの確保はトラック選びから

「最新のトラックはキャビンが広く、以前に比べると居住性が本当によくなりましたね」――こう語るのは、さまざまな新型トラックを見るために東京モーターショーを訪れた日本トラック金沢支店の田中一法部長(写真)。

運送会社はトラックを選定する際、燃費、環境規制対応、ドライバーの安全性、快適性など、さまざまな角度から検討を行うが、居住性はその中でも重要度の高い項目だ。「運送会社にとって大切なことのひとつに、いいドライバーを集めるということがありますが、そのためにもいいトラックをどんどん導入して、ドライバーにとって魅力ある職場づくりをする必要があるんです」。

日本トラック金沢支店は大型トラックだけで約20台を運用しており、車両の入れ換えも多い。それだけにショー会場でトラックを見るまなざしも真剣そのものだった。

シンポジウム

11月7日(日)13:00〜15:00／国際会議室

自動車リサイクル法
〜あなたの車の義務と負担〜

経済産業省／環境省／(財)自動車リサイクル促進センター

●コーディネーター
藤田太寅氏(元NHK解説委員、関西学院大学教授)
●パネリスト
北川えり氏(タレント)
佐野真理子氏(主婦連合会事務局長)
永田勝也氏(早稲田大学理工学部教授)
中谷義雄氏(自動車リサイクル促進センター専務理事)
益田清氏(日本自動車工業会環境委員会リサイクル・廃棄物部会長)
宮本昭彦氏(経済産業省製造産業局自動車課自動車リサイクル室長)

来年1月1日から自動車リサイクル法が施行される。循環型社会を目指した「新しい社会システムづくり」として世界中から注目されている法律だが、メーカー、関係者と三位一体の役割を担うユーザーである国民の理解・支持がシステム成功への鍵と言われる。

このためシンポジウムでは直近の課題として市民への街頭インタビューを通じて料金と預託制度、クルマの不法投棄への効果といった疑問について、各パネラー同士が質疑応答する形で解説された。

また、長期的課題として消費者の果たすべき役割などについてフリートーク。日本での成功が新たな競争力になること、その成功には国民一人ひとりの参加意識にかかっていることが結論づけられた。

11月7日(日)15:00〜17:00／中会議室201

「地球の温暖化への対応」
〜最新クリーンディーゼル車について考える〜

経済産業省

●講師／パネリスト
大聖泰弘氏(早稲田大学理工学部教授)
石谷　久氏(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究課教授)
清水和夫氏(自動車評論家)
上田建仁氏(トヨタ自動車常務役員)
フリーデマン・ブリュール氏(ダイムラー・クライスラー日本技術コンプライアンス部長)
伊藤　悟氏 (ボッシュオートモーティブシステム執行役員)
渡邉　誠氏(経済産業省製造産業局自動車企画官)

ガソリン車より20%程度も燃費が良く、地球温暖化対策として有効なディーゼルエンジン搭載の乗用車。しかし、欧州などに比べ日本は排ガス規制が厳しく、現時点では普及が難しい状況にある。一方で、ディーゼル乗用車を手がける各メーカーはクリーンディーゼルの開発競争にしのぎを削っているが、シンポジウムでは、その技術動向を踏まえ、6人の講師がそれぞれの視点からスピーチを行った。引き続き、大聖氏のコーディネートでパネルディスカッションに移り、ディーゼル乗用車がクルマ社会で将来的に果たす役割や期待などについて活発な議論を繰り広げた。

第39回 東京モーターショー 開催概要

◆名称
第39回東京モーターショー
―乗用車・二輪車―(2005年)
◆主催
社団法人 日本自動車工業会
◆会場
幕張メッセ<日本コンベションセンター>

◆会期
平成17年10月21日(金)〜11月6日(日)

プレスデー	10月19日(水)〜20日(木)
特別招待日	10月21日(金)
一般公開日	10月22日(土)〜11月6日(日)

The 38th

TOKYO MOTOR SHOW 2004

Commercial & Barrier-free Vehicles

Vehicles for people.
Vehicles as partner.

第38回ショーを振り返って

入場者数

月 日			天 候	入場者数	累計
11月2日	火	プレスデー	曇のち晴	2,860人	2,860人
			プレス入場者数合計		2,860人
11月2日	火	特別招待日	曇のち晴	12,500人	12,500人
11月3日	水祝	一般公開日	晴	53,500人	66,000人
11月4日	木	一般公開日	晴	32,900人	98,900人
11月5日	金	一般公開日	晴	40,200人	139,100人
11月6日	土	一般公開日	曇のち晴	52,500人	191,600人
11月7日	日	一般公開日	晴	57,000人	248,600人
			一般入場者数合計		248,600人

同乗試乗会参加者数 **2,725**人	シンポジウム参加者数 **2,321**人
ウェルフェアパーク試乗会参加者数 **2,188**人	スタンプラリー参加者数 **7,651**人
献血者数 **868**人	ドナー登録者数 **108**人

協力会社一覧

SUNTORY

NTTコミュニケーションズ

Sony Computer Entertainment Inc

セーレン

日本興亜損保

BRICS

東京電力

レンタルのニッケン

TOMY

株式会社オートウェーブ

Delphi Corporation

プレスセンター協力会社

プレスセンター協賛

BRIDGESTONE

プレスセンター協力

株式会社日本航空インターナショナル

株式会社リコー

アップルコンピュータ株式会社

日本アイ・ビー・エム株式会社

マイクロソフト株式会社

株式会社シマンテック

株式会社ジェイティービー

東京モーターショーニュース・スタッフ

監　　修　金子 昭三
執　　筆　金子 昭三、福田 俊之、山下 雄璽郎、井元 康一郎
写真撮影　野澤 廣幸、(株)ヘクトパスカル、(株)イメージサイエンス
翻　　訳　Richard Walker/Adam Goodwin
　　((株)ユニカルインターナショナル)
進行管理　(株)ユニカルインターナショナル
デザイン・DTP　(株)アイテム

編集後記

社団法人日本自動車工業会
理事・事務局長　田中　勲

今年のショーは、従来のサブタイトル「商用車」から「働くくるまと福祉車両」へ変更し、環境・安全・福祉分野の最新技術の展示、全10テーマのシンポジウム、多彩な“お客様参加・体験型”イベントなどが奏功し、目標としていたご来場者数23万5,000人を大きく上回り、商用車ショーとしては過去最高の24万8,600人を記録いたしました。

次回は、1954年にスタートした東京モーターショーの新たな50年の始まりであり、半世紀の歴史をひも解きながらますます進化していくクルマを感じていただけるよう、さらにパワーアップした企画を考えて参りたいと思います。

TOKYO MOTOR SHOW The 38th Commercial & Barrier-free Vehicles 2004

11月7日の入場者数 57,000人　入場者数累計 248,600人

東京モーターショーニュースVol.6　2004年11月8日発行
発行所　社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012　東京都港区芝大門1丁目1番30号　日本自動車会館
TEL.03-5405-6119　FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com
JAMA